

「友達も自分も大切に」

美

山小学校が開校しました。春には1年生歓迎遠足で、全校児童が異年齢同士で作る「なかよしグループ」に分かれて、学校の近くを遠足し、友達との交流の輪が広がりました。1年生は、お兄さんやお姉さんの優しさに安心して、楽しい学校生活につなげることができました。そして、学年の枠を超えて遊んだり交流したりする姿が増えていきます。

6月には、「人権旬間」に取り組みました。人権旬間のスローガンを「友達のことをもっと知ろう」とし、全校児童が自己紹介カードを作って廊下に掲示したところ、「友達の好きなことは何かな」、「得意なこと何かな」、「どんなことをがんばっているのかな」と、友達のことを知りたいという気持ちがいかに深まったのです。そして、さらに仲良くなれるようにと考え、なかよしグループで遊びました。高学年の児童は、みんなが楽しめる遊びを考えて、みんなの様子を見ながら進めることができ、低学年の児童は、「ルールを分かりやすく教えてもらって楽しかった」、「遊ぶ場所



廊下に掲示している自己紹介カード

まで連れて行ってもらった」、「かるたをゆっくり分かりやすく読んでもらった」など、優しくしてもらったことを感じて喜びました。

そ

の後も、昼休みに全校遊びをしたり、運動会に向けての練習をしたりと、1年生から6年生までの児童が、お互いの気持ちを思いやり合いながら協力し合っています。

友

達のことを知るとともに自分のこともよく知って、友達も自分も好きになり、大切にできる美山っ子であってほしいと願っています。

(美山小学校 人権教育主任

平井 祐子)

ふ・れ・あ・い



—第21回—

北朝鮮当局による拉致問題

1970年代から80年代にかけて、多くの日本人が不自然な形で行方不明となる事件が起きました。日本の関係機関による捜査や亡命北朝鮮工作員の証言などにより、これらの事件の多くは北朝鮮当局による拉致の疑いが強いことが明らかになりました。

2002年の日朝首脳会談において、北朝鮮当局は長年否定してきた拉致問題を初めて認め謝罪し、日本政府認定の拉致被害者17人のうち、5人とその家族の帰国が実現しましたが、残された12人の拉致被害者に加え、拉致の疑いのある多くの方が安否不明のままとなっています。

北朝鮮当局による日本人の拉致は国家による犯罪行為で

あり、人間の尊厳、人権および基本的自由に対する重大な侵害です。一方で、この問題に対する無理解や誤解から、直接関係のない在日コリアンの方々に対する嫌がらせなどの二次被害も生じており、大きな社会問題となっています。日本政府においては、内閣に「拉致問題対策本部」を設置するなど、総合的な対策が進められていますが、大きな進展は見られていません。

もし、あなたや、あなたの家族がある日突然連れ去られ、数十年が過ぎた今も、ふるさとかから遠く離れた国で救出を待ち続けているとしたら、あなたはどうしますか。

毎年12月10日から16日は「北朝鮮人権侵害問題啓発週間」です。拉致被害者やその家族の思いを受け止め、私たちがこの問題に関心を持ち続けることが大切であり、それが問題解決に向けた大きな力になります。

(人権政策課)

